

## 特別なニーズのある子どもの余暇支援プロジェクト

## 【メンバー】

【学生】 金刺 将弥/久保 凪沙/佐藤 茉央/大志民 初音/越智 美雨  
 【担当教員】 細谷 一博

## 【背景】

障害のある子ども達の遊べる場所が数少ない今、彼らが遊べる場所を提供することが求められている。そこで、本プロジェクトでは、障害のある子ども達の遊び場の1つとして、スペシャルオリンピックス(SO)を提供した。

## 【目的】

このスペシャルオリンピックスを通して、障害のある子ども達の余暇活動を支援し、身体を動かすことへの楽しさを知ってもらうことが、本プロジェクトの目的である。

## 【概要】

スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織である。函館プログラムでは、夏季種目としてユニファイドバスケットボールプログラム、ヤングアスリートプログラム、ボッチプログラムを実施しており、冬季種目としてスノーシューイングプログラムを実施している。

その中で私たちは、ヤングアスリートプログラムにて活動を行った。

## 【プロセスと成果】

## &lt;前期&gt;

## 第1回、第2回

スペシャルオリンピックスの活動の把握を行い、子どもとの信頼関係の構築を図った。

## 第3回

- ・メインのゲームに参加した子どもは楽しそうに活動していた。
- ・親から離れられなかった子どももいたが、終盤にはゲームに参加できていた。

## 第4回

- ・子ども達との信頼関係をさらに深めることができた。
- ・子ども達は順番を守ってゲームに取り組むことができていた。
- ・子どもが全ての活動に主体的に参加してくれた。

## 休日の余暇活動に関するアンケート調査

各活動と並行して、アンケート用紙の作成、アンケート調査及び集計を行った。

対象：H市内の児童発達支援センターに通所する37世帯

内容：子どもの休日の過ごし方、休日を過ごす際に誰と遊ぶか、外出時に困ったこと、余暇を過ごす上での家族の負担、余暇の過ごし方の満足度、余暇を過ごす上での要望、休日の過ごし方に不安(不満)はあるか、スペシャルオリンピックスを知っているか 計8項目

## &lt;後期&gt;

## 第1回

- ・すべての子どもが何かしらの活動に参加していた。
- ・ボウリングで順番を守って活動していた。
- ・形にタッチという活動で遅れている子に対して、応援する場面が見られた。

## 第2回

- ・STを設けることで活動がスムーズに進行した。
- ・支援が必要な子どもの優先順位を見直すことが出来た。
- ・子ども全員が活動に参加できていた。
- ・輪の投げ方の指導を行うことで投げ方が定着していた。

## 第3回

- ・平均台の補助を正面から行うことで子どもの力で取り組むことが出来ていた。
- ・子ども達が積極的に活動に参加していた。
- ・活動中に子どもが自主的に応援する場面が見られた。

**【総括と反省・今後の課題】**

前期の総括として、特別なニーズのある子ども達に体を動かすことへの楽しさを知ってもらうという目的を達成することはできた。その一方で、アンケート調査の結果から、スペシャルオリンピックス函館の認知度が低いということが判明した。

反省として、幼児児童の余暇活動の現状及び求められている活動や施設についてアンケート調査を通して知ることはできたが、その情報を十分に活かすことができなかった。後期では、得た情報を活かし、周辺の発達支援センターや幼稚園等の機関へ周知活動を積極的に行っていきたいと考えた。

後期の総括としては、回数を重ねるごとに、子ども達の方から近づいてきてくれるようになり、活動にも積極的に参加してくれるようになった。また、前期に行ったアンケート調査の結果及び中間発表時に製作したポスターを関係各所に送付する周知活動を行った。

反省としては、遊具の危険性やその防止策を事前に吟味する必要があったことや、子どもの興味に合わせて活動を工夫すると共に、代替策を複数考える必要があったことなどが挙げられた。

今後の課題として、スペシャルオリンピックス函館・ヤングアスリートプログラムの対象とする児童の制限をせずに募集をしていく必要がある。また、この活動を広めるためにラジオや新聞などのマスメディアを活用した周知活動を行っていきたいと考える。

▽前期 第3回  
転がしドッチボール



▽後期 第2回  
サーキット



△後期 第1回  
エアボール

**【地域からの評価】**

スペシャルオリンピックス函館・ヤングアスリートプログラムという活動を地域プロジェクトのフィールドとすることで、学内だけでなく、地域の方々に知ってもらうことが出来た。しかし、スペシャルオリンピックスの諸活動の認知度は未だに低い状況である。そのため、今後認知度を高めていく活動を積極的に行っていく必要があるのではないかと意見があった。

また、子どものバランス能力の育成と安全確保のために常にサポートに入るように徹していたが、極力子ども達の手だけで行わせ、本当にサポートが必要なときだけサポートに入るべきではないかという意見もあった。

**【その他】**

**■年間スケジュール**

前期	5月 20日	第1回 活動把握	アンケート用紙作成 アンケート調査 アンケート集計
	6月 3日	第2回 活動把握	
	6月 17日	第3回 転がしドッチボール・ サーキット	
	7月 1日	第4回 自己紹介タイム・ ボール拾い・サーキット	
後期	10月 28日	第1回 形にタッチ・エアボール・ボウリング	
	11月 18日	第2回 わなげ・サーキット	
	12月 16日	第3回 わなげを用いた遊び・ プラズマカーリレー・サーキット	

※上記の他に毎週活動に向けた打ち合わせを行った